

1 高校生アンケート結果

◇ 調査概要

1) 目的

2) 調査方法

- ① 調査対象者
糸魚川市在住の高校生男女 63 人
- ② 調査期間
令和元年 8 月 22 日～令和元年 9 月 12 日
- ③ 調査方法
郵送による自記入調査法
- ④ 回収結果

対象者数	63
回収数	63
回収率	100%

◇ アンケートの集計方法

本アンケート調査は、以下の方法で集計を行った。

1) 問1・2・3・5・8・9について

「問1・2・3・5・8・9」は、選択肢から当てはまるものを1つ回答する質問であるため、2つ以上の回答があった場合は以下の方法で集計を行った。

- ① 隣接する2つの選択肢に回答があった場合は、番号の小さい選択肢を有効とした。
例) 「1 ② ③ 4」→「2」
- ② 隣接しない2つの選択肢に回答があった場合は、無回答として集計した。
例) 「① 2 ③ 4」→「無回答」
- ③ 3つ以上の選択肢に回答があった場合は、無回答として集計した。
例) 「① ② 3 4」→「無回答」

2) 問4について

「問4」は、分別区分ごとの排出量を記載する質問であるため、巾のある回答や小数点以下の回答があった場合は以下の方法で集計を行った。

- ① 巾のある回答があった場合は、最大値を有効とした。
例) 「2～3個」→「3個」
- ② 小数点以下の回答があった場合は、小数点以下を繰り上げた値を有効とした。
例) 「0.5個」→「1個」

3) 問6について

「問6」は、選択肢から当てはまるものを1つ回答する質問であるが、2つ以上の回答があった場合も全て有効として集計を行った。

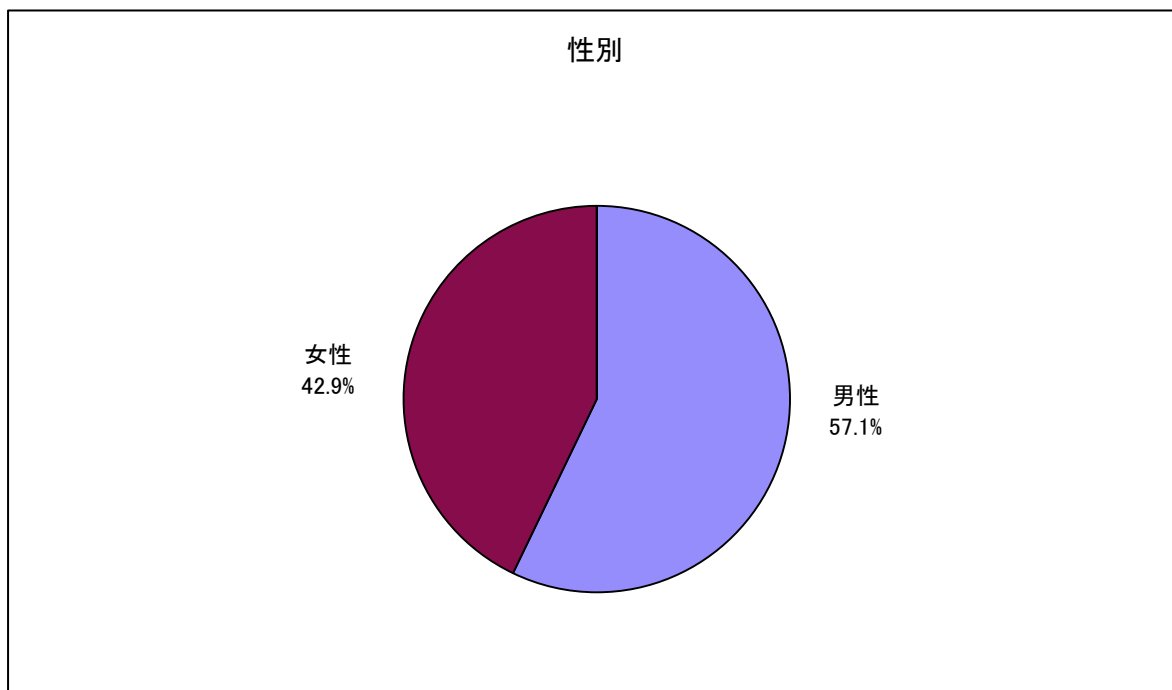
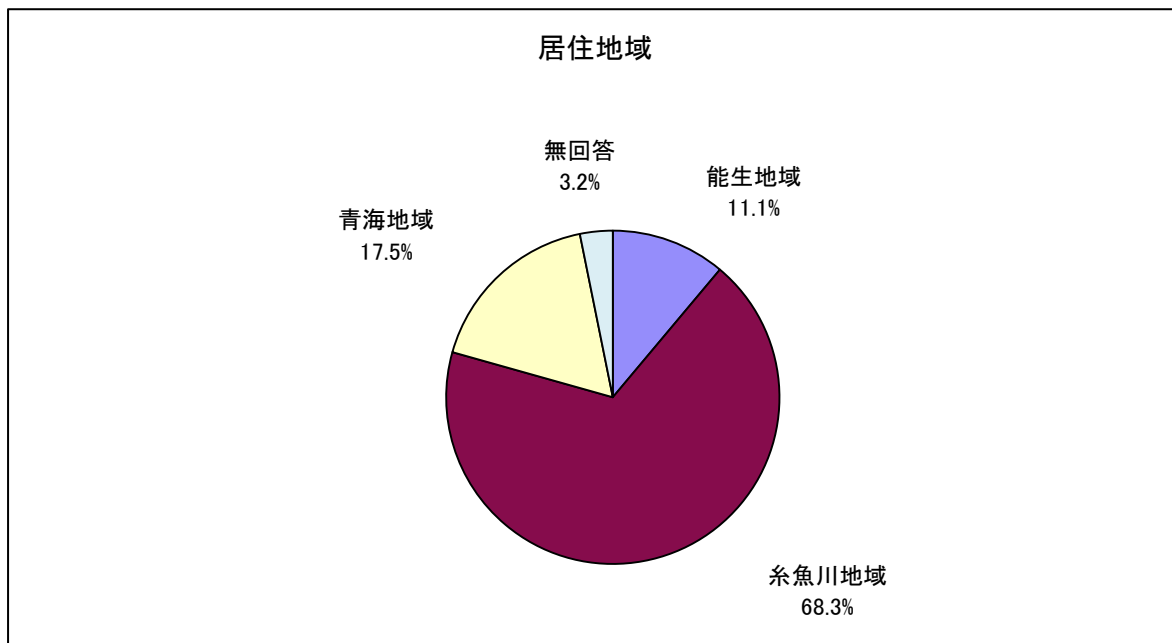
4) 欄外のコメントについて

欄外に各質問に関するコメント等が記載されていた場合は、問10に転記して集計を行った。

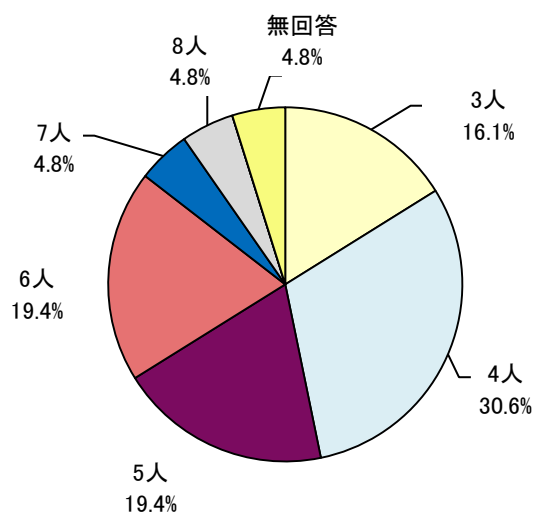
◇ サンプル（属性データ）

本アンケートは令和元年8月22日～令和元年9月12日に実施した。糸魚川市在住の高校生63人を対象に調査票を配布し、63名（100%）の回答を得た。アンケートのサンプルは、本市内高校生の性別・居住地域別の構成をもとに層化抽出した。

以下に回答者の居住地域、性別、世帯人数の属性データを示す。性別では男性の回答が57.1%で、男女比はやや男性が多い結果となった。世帯人数は2人以下の回答は無く、「3人」と「4人」が半分弱を占めている。



世帯人数

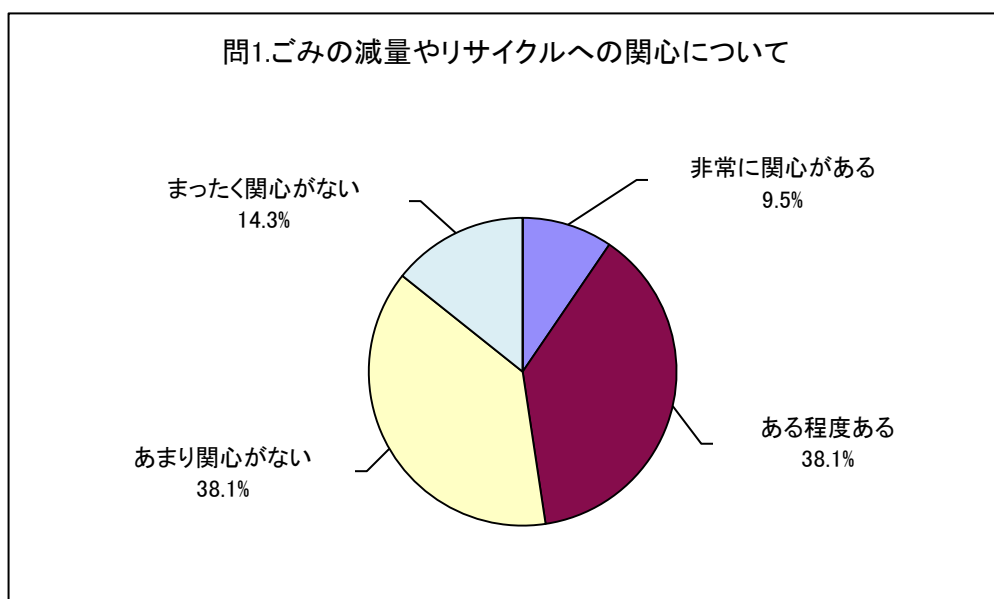


◇ アンケート結果

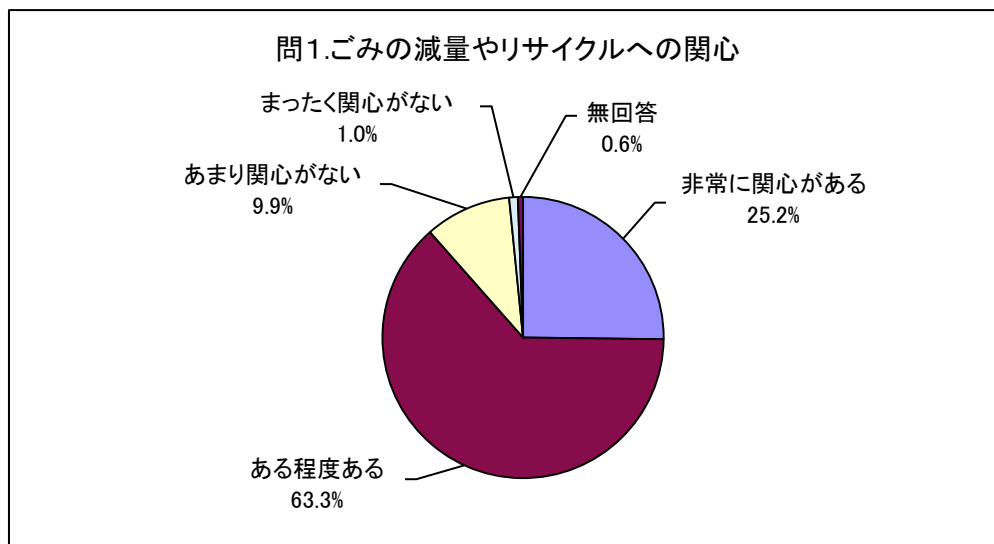
問1 ごみの減量とリサイクルへの関心

「非常に関心がある」9.5%と「ある程度ある」38.1%を合わせると47.6%、「まったく関心がない」14.3%と「あまり関心がない」38.1%が合わせて52.4%で、関心を持っていない高校生が半数を超えており、若年層の認識の改善が今後の課題になると思われる。

同時に行った一般家庭全体の調査結果と比較すると、「非常に関心がある」が半分以下、「ある程度ある」が半分程度、とごみの減量とリサイクルへの関心が低いことが読み取れる。



今回の調査結果

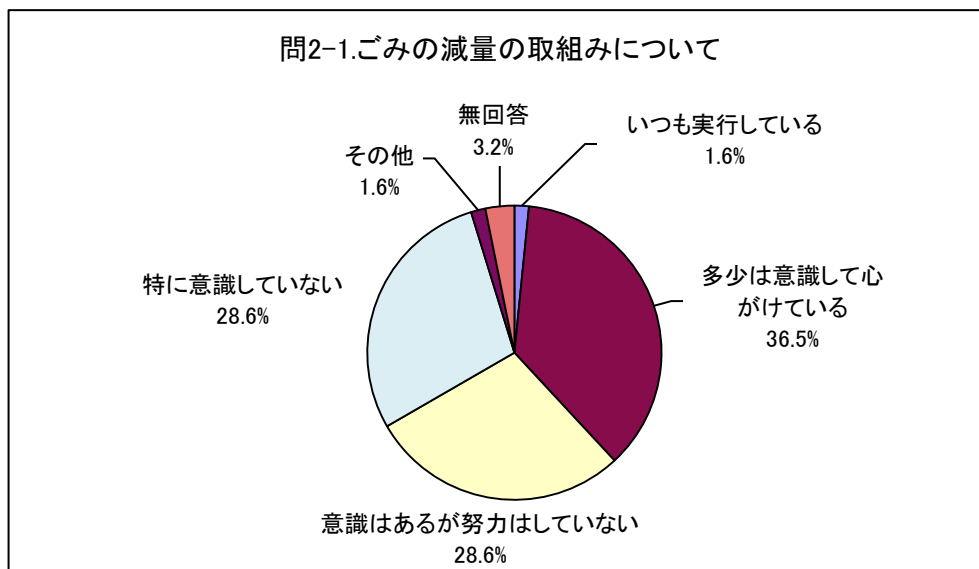


(参考) 一般家庭 (令和元年度)

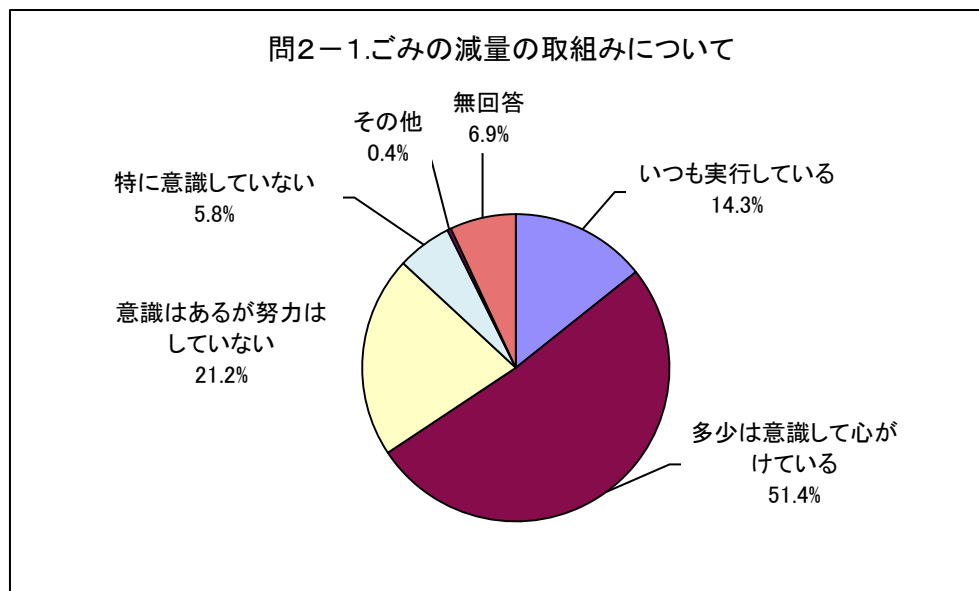
問2-1 ごみの減量の取組みについて

問1で関心があると答えた回答者の内、「いつも実行している」1.6%と「多少は意識して心がけている」36.5%を合わせても38.1%となり、4割にも満たず、「意識はあるが努力はしていない」28.6%、「特に意識していない」28.6%が同率で、合わせると**57.2%と半数を超えており、高校生の多くはごみの減量やリサイクルへの取組みに対して消極的**である事が見て取れる。

同時に行った一般家庭全体の調査結果と比較すると、「いつも実行している」が1/10程度であり、「多少は意識して心がけている」も低い。また、「特に意識していない」が3割程度あり一般家庭の5.8%と比べるとかなり高くなっており、**ごみ減量への関心が低い**ことが読み取れる。



今回の調査結果

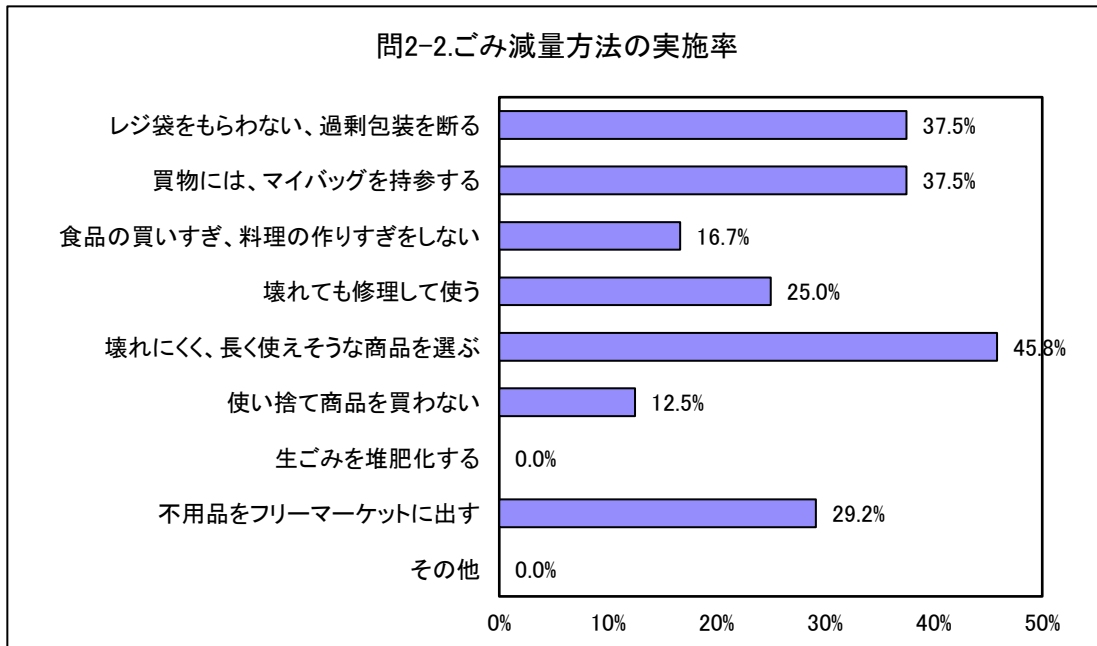


(参考) 一般家庭 (令和元年度)

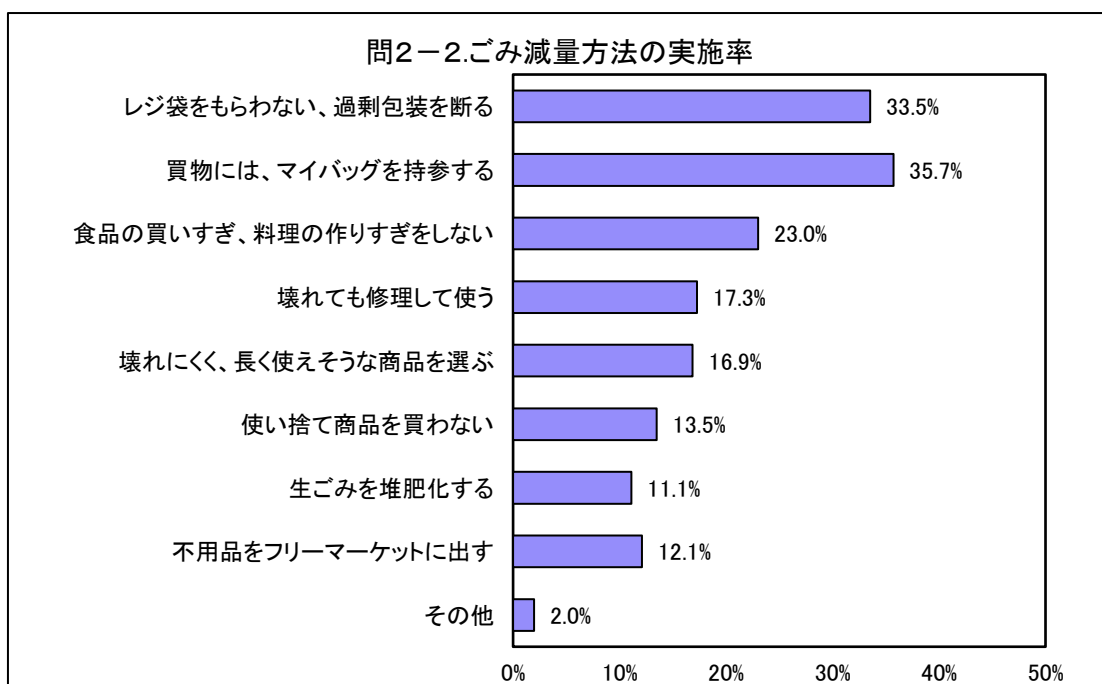
問2-2 ごみ減量方法の実施率

実施率は、各項目の回答数を総回答人数 63 人で割り、算出した。「**長く使えそうな商品を選ぶ**」**45.8%**が最も高く、「レジ袋をもらわない」と「マイバックを持参」がともに 37.5%となっている。次いで「フリーマーケットに出す」が 29.2%、「修理して使う」が 25.0%となった。他の項目はいずれも 20%に満たなかった。

同時に行った一般家庭全体の調査結果と比較すると、「壊れにくく、長く使えそうな商品を選ぶ」が高い反面、「食品の買いすぎ、料理の作りすぎをしない」「生ごみをたい肥にする」などが低くなっている。



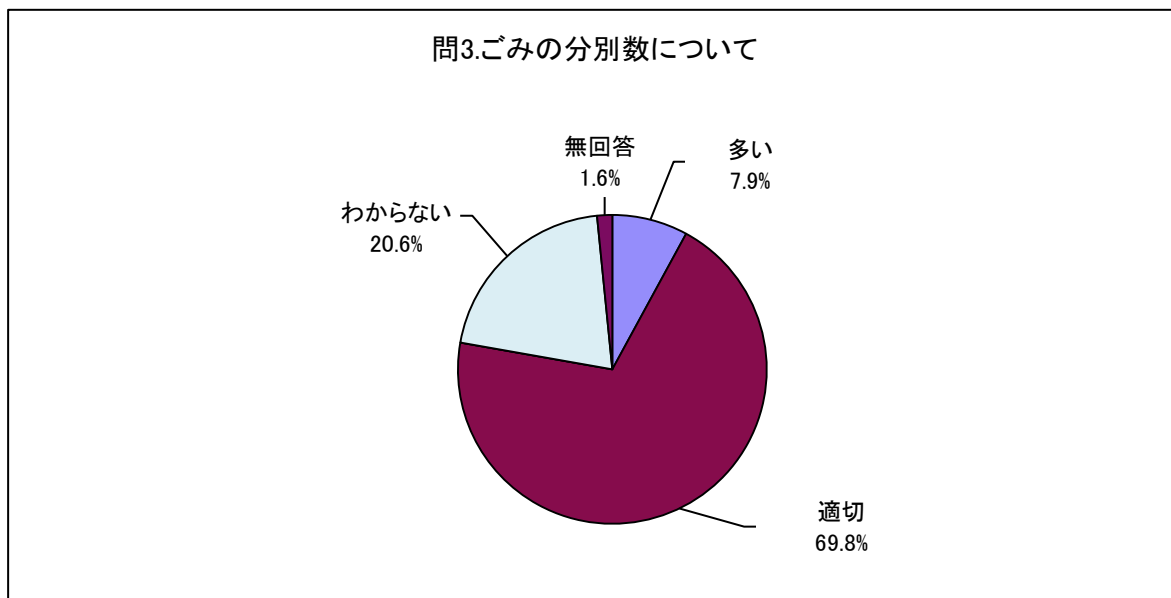
今回の調査結果



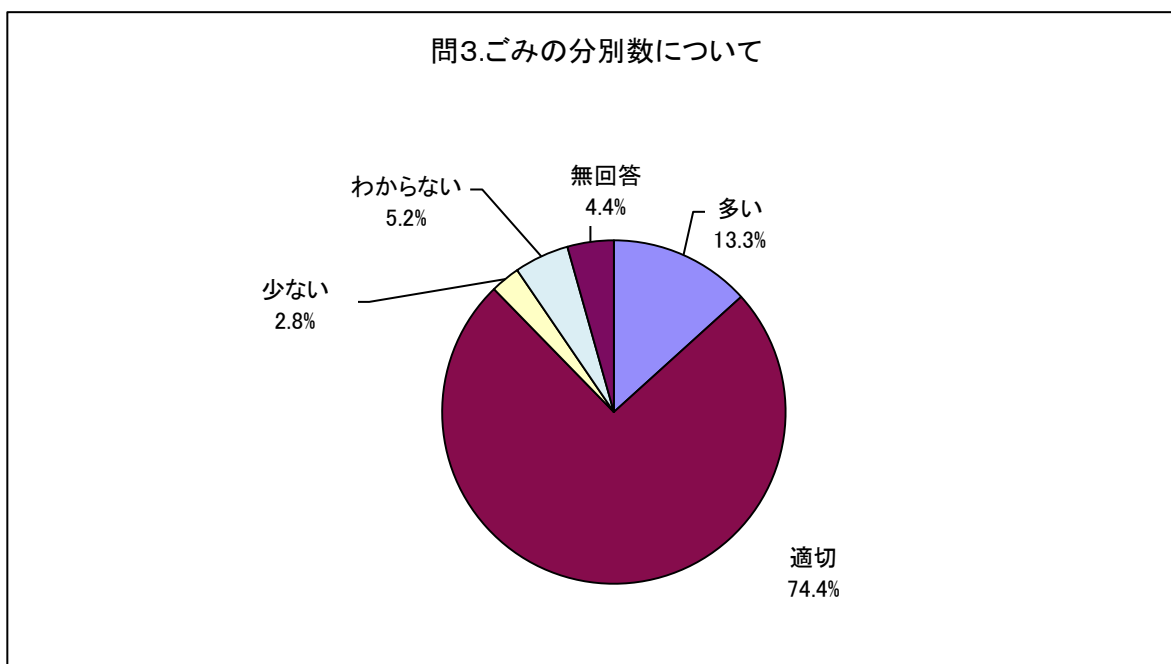
(参考) 一般家庭 (令和元年度)

問3 現在の分別数について

現在の19分別に対して、「適切」69.8%が最も多い結果となり、少ないと答えた回答者はいなかった。同時に行った一般家庭全体の調査結果と比較すると、「多い」が半分程度となった。



今回の調査結果

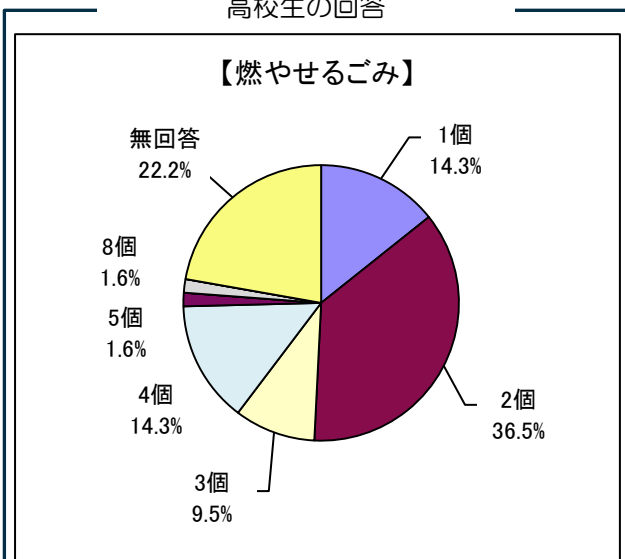


(参考) 一般家庭 (令和元年度)

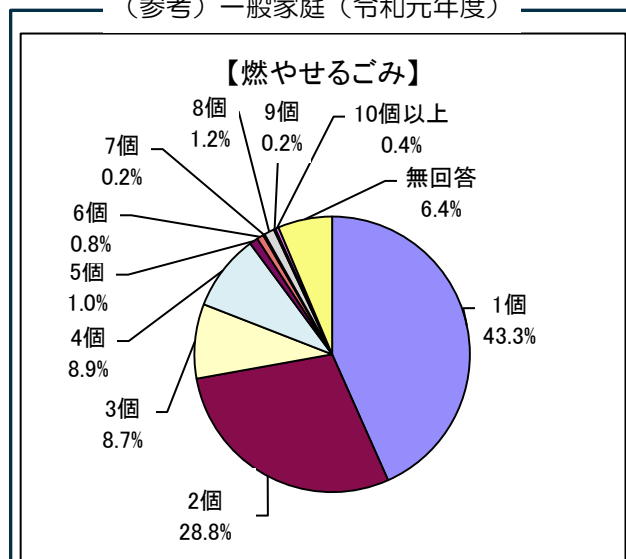
問4 ごみの排出量について（10リットルのレジ袋換算）

各項目の排出量は、収集日1回当たりに出すごみの量を10リットルのレジ袋に換算して算出した。燃やせるごみ（週3回）の1回当たりの排出量は「2個」36.5%の回答が最も多く、次いで「1個」と「4個」が同率で14.3%の順となり、大部分は4個/回以下という結果となった。プラスチック容器包装（週1回）は「1個」28.6%の回答が最も多く、「2個」23.8%の回答が次に多く過半数が2個/回以下であった。ペットボトル（月2回）、白色トレイ（月1回）、びん類（月1回）、金物類（月1回）、埋立ごみ（月1回）紙・布類は総じて2個/回以下が殆どを占めている。全体的に無回答の割合が高く、家庭のごみ排出状況を認識していない高校生が少なくない事が見て取れる。

高校生の回答

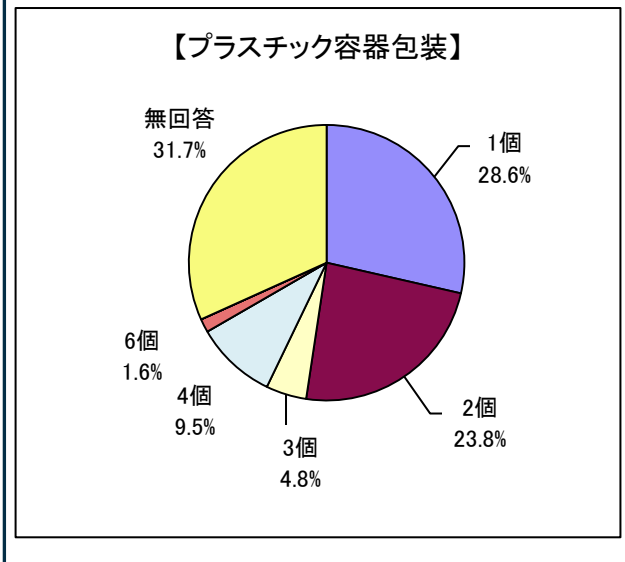


（参考）一般家庭（令和元年度）

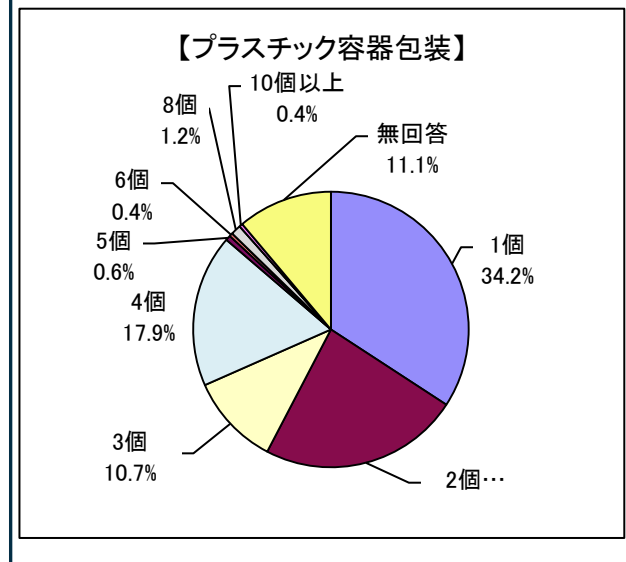


注) 「10個以上」の回答数は2人であり、それぞれ10個と12個である。

【プラスチック容器包装】

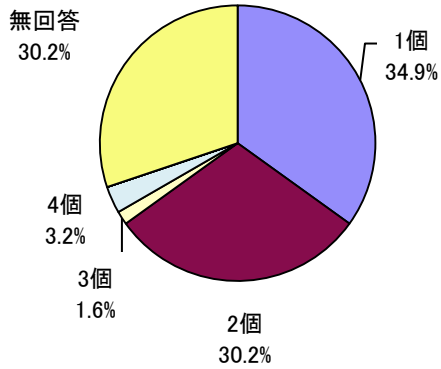


【プラスチック容器包装】

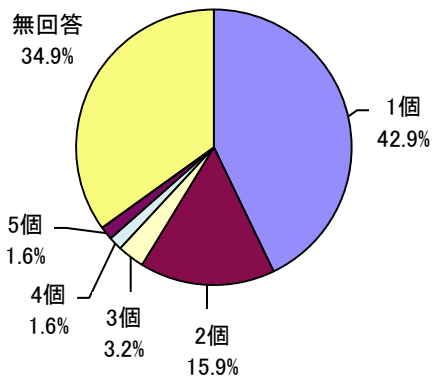


高校生の回答

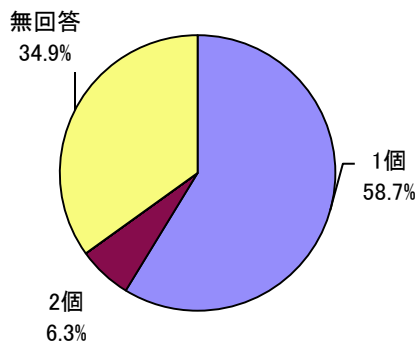
【ペットボトル】



【白色トレイ】

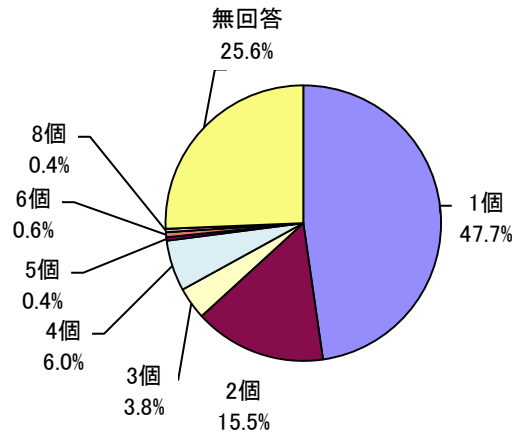


【びん類】

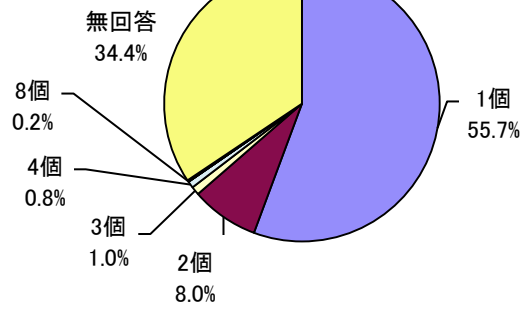


(参考) 一般家庭(令和元年度)

【ペットボトル】

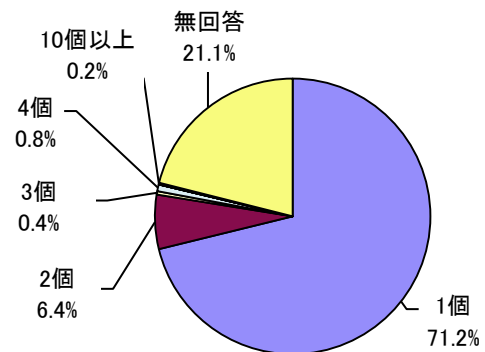


【白色トレイ】



注) 「10個以上」の回答数は2人であり、いずれも12個である。

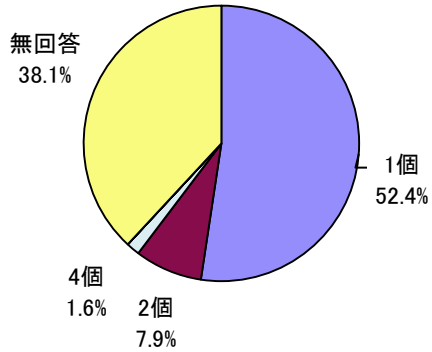
【びん類】



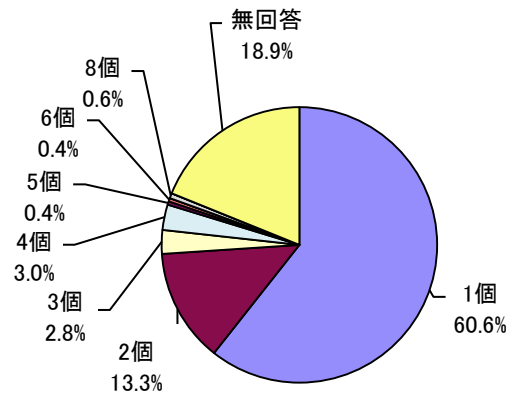
高校生の回答

(参考) 一般家庭 (令和元年度)

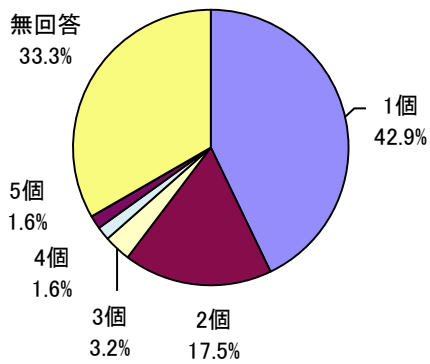
【金物類】



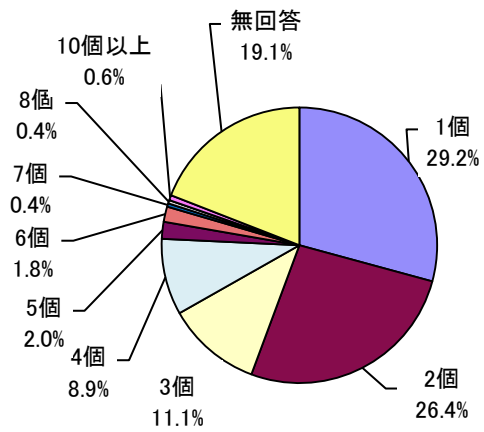
【金物類】



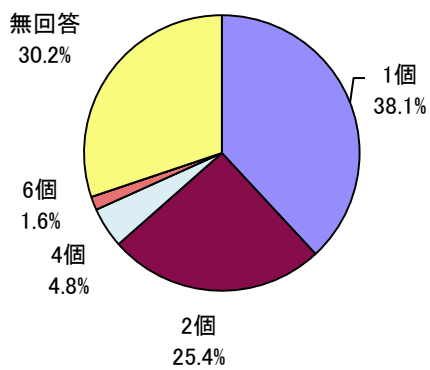
【紙・布類】



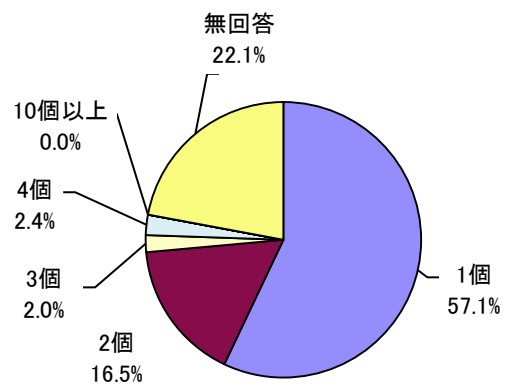
【紙・布類】



【埋立ごみ】



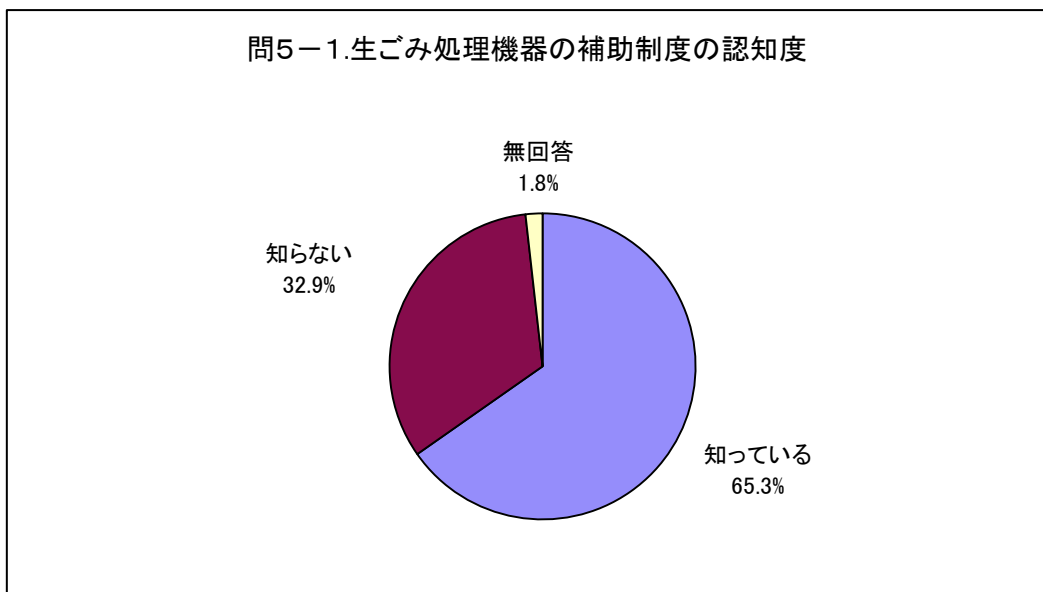
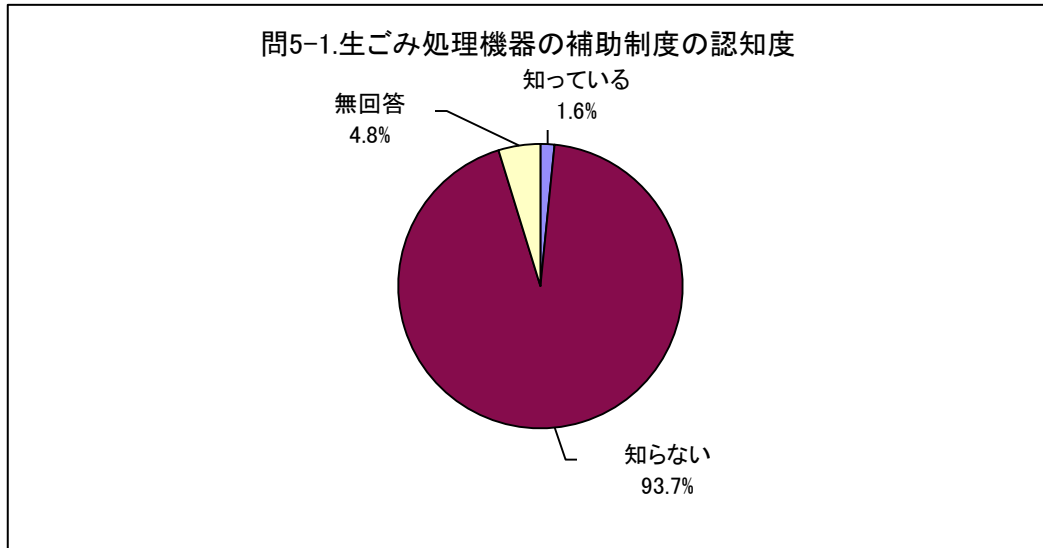
【埋立ごみ】



問5-1 生ごみ処理器設置費補助金制度について

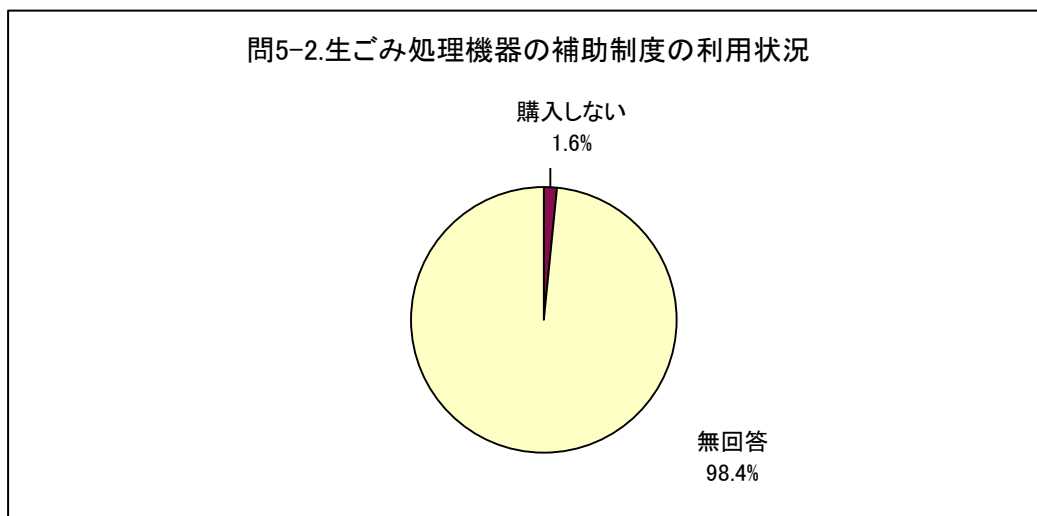
「知っている」1.6%、「知らない」93.7%であり、高校生の9割以上は当制度を知らないという結果となった。

同時に行った一般家庭全体の調査結果と比較すると、ほとんどの高校生が制度を知らないとい結果となった。

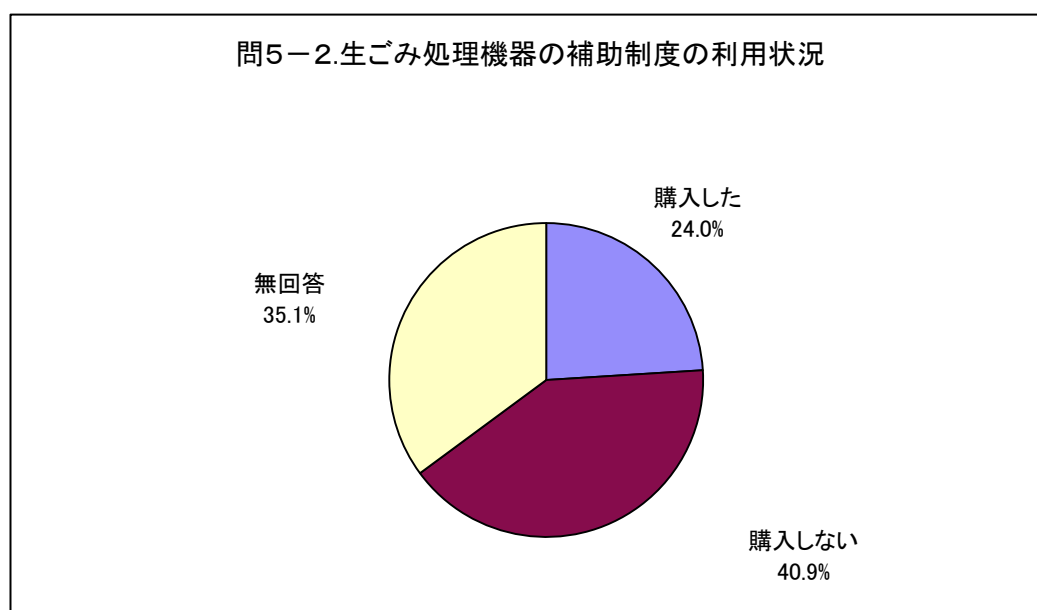


問5-2 生ごみ処理器設置費補助金制度の利用状況

制度を知っていると回答したものの内、実際に制度を利用して「購入した」のは0で、殆どが無回答であった。



今回の調査結果



(参考) 一般家庭 (令和元年度)

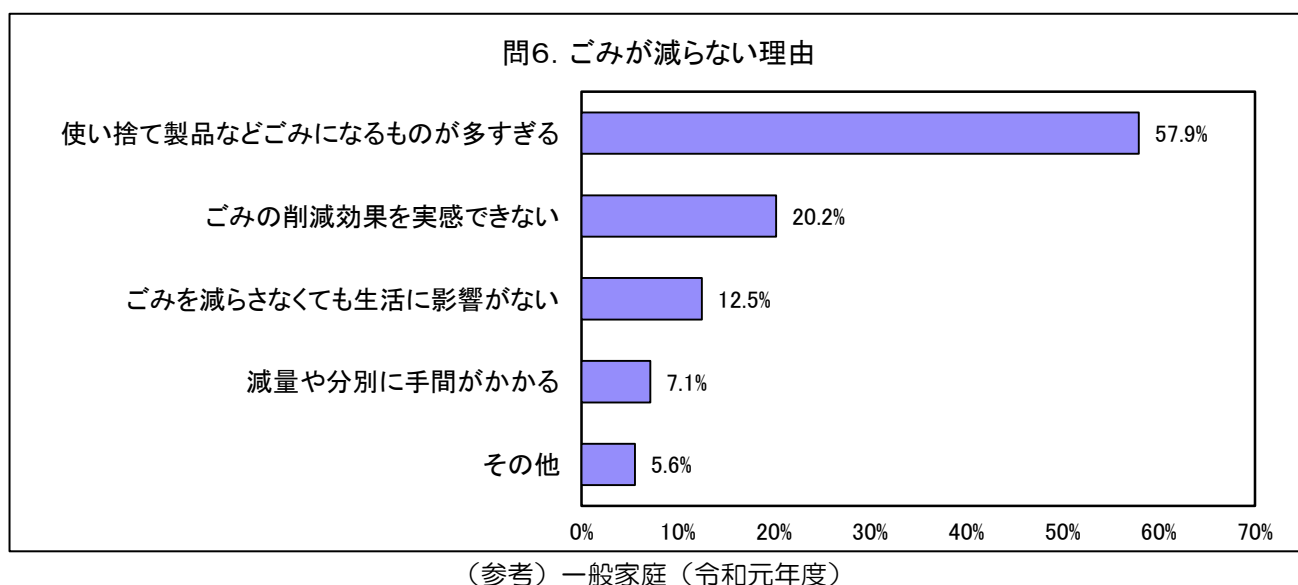
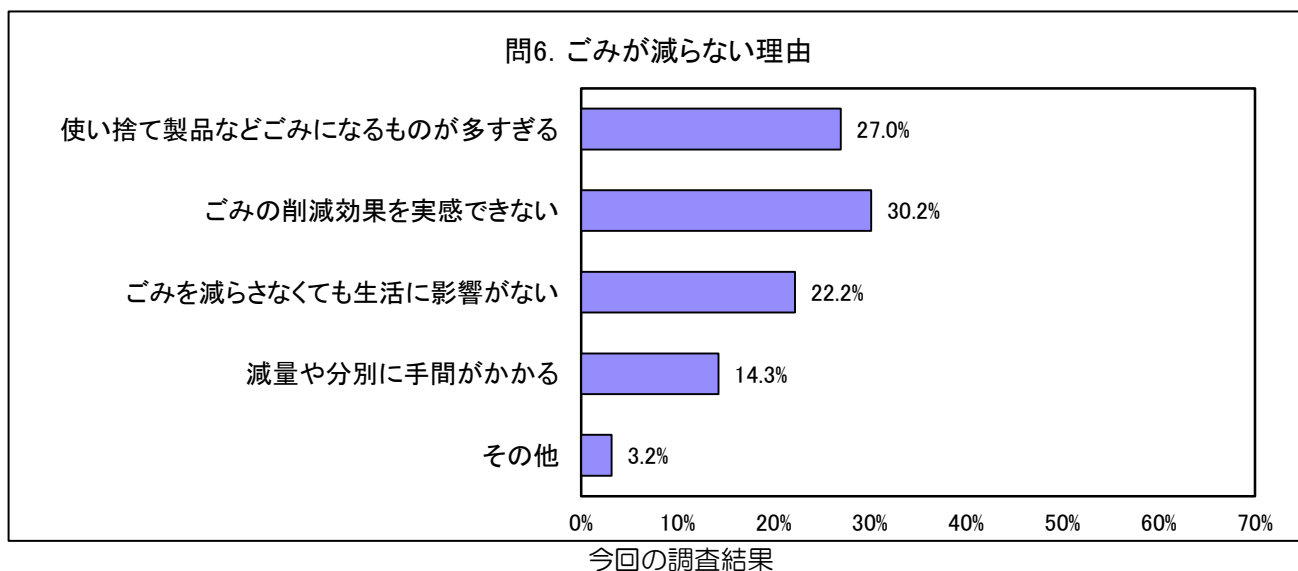
問5-3 生ごみ処理器の購入実績

「制度を利用して購入した」の回答は0であった。

問6 ごみが減らない原因

「ごみの削減効果を実感できない」30.2%が最も多く、次いで「使い捨て製品などが多すぎる」27.0%、「生活に影響がない」が22.2%となっており、ごみを減らす必要性の理解が不足していると思われる。

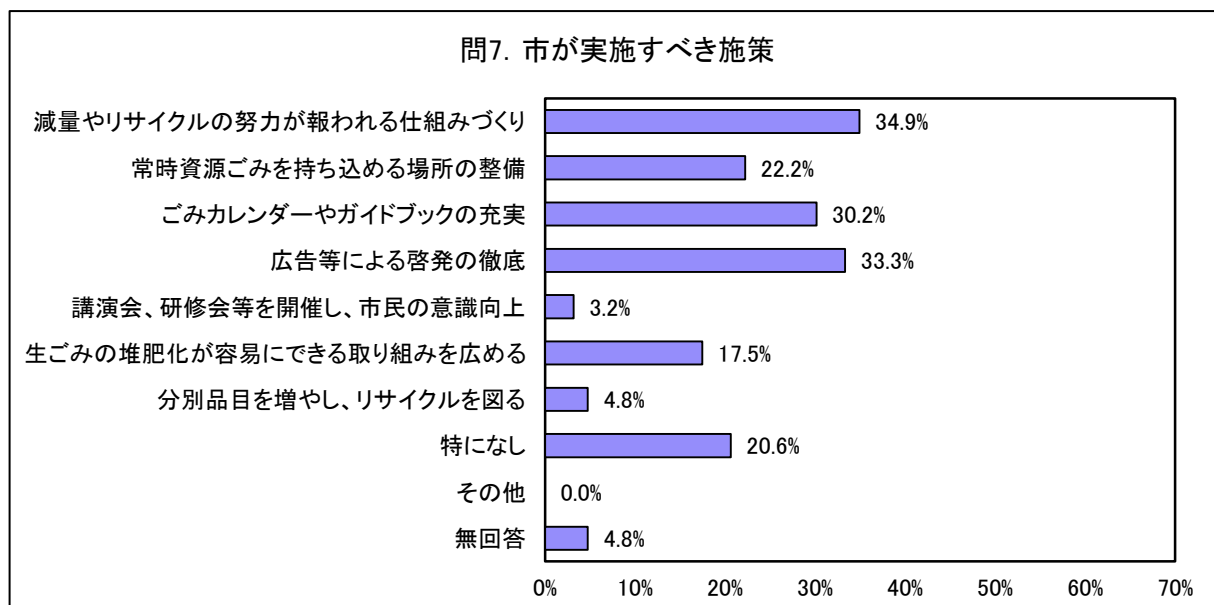
同時に行った一般家庭全体の調査結果と比較すると、「使い捨て製品などごみになるものが身の回りに多すぎるから」が半分以下となった。「ごみの削減効果を期待できない。」「ごみを減らさなくても自分たちの生活に影響がないから。」が一般家庭と比べ高かった。



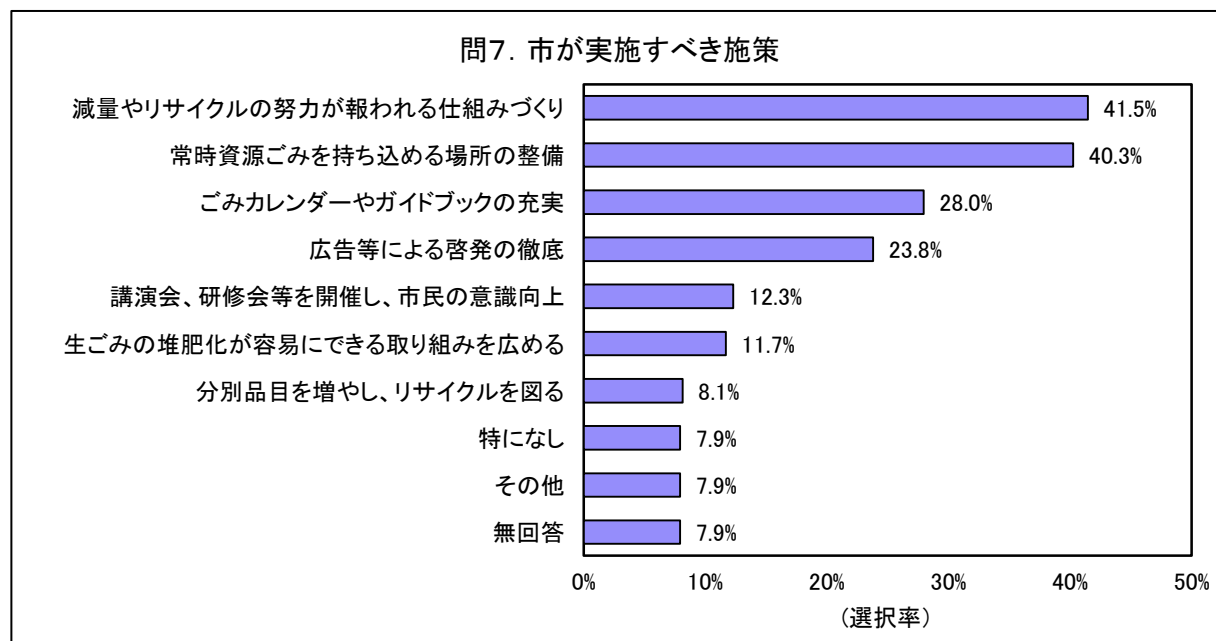
問7 市が実施すべき施策

「減量やリサイクルの努力が報われる仕組みづくり」34.9%が最も多い結果となった。次いで、「広告等による啓発の徹底」33.3%、「ごみカレンダーやガイドブックの充実」30.2%の上位3つが多かった。一方、「分別品目を増やし、リサイクルを図る」4.8%、「講演会、研修会等を開催し、市民の意識向上」3.2%の項目については選択率が極端に低かった。

同時に行った一般家庭全体の調査結果と比較すると、「ごみカレンダーやごみの分別ガイドブックなどの内容を充実する」「広告等による啓発を徹底する」が高く、「減量やリサイクルの努力が報われる仕組みづくり」「常時資源ごみを持ち込める場所を整備する」などが低くなっている。



今回の調査結果

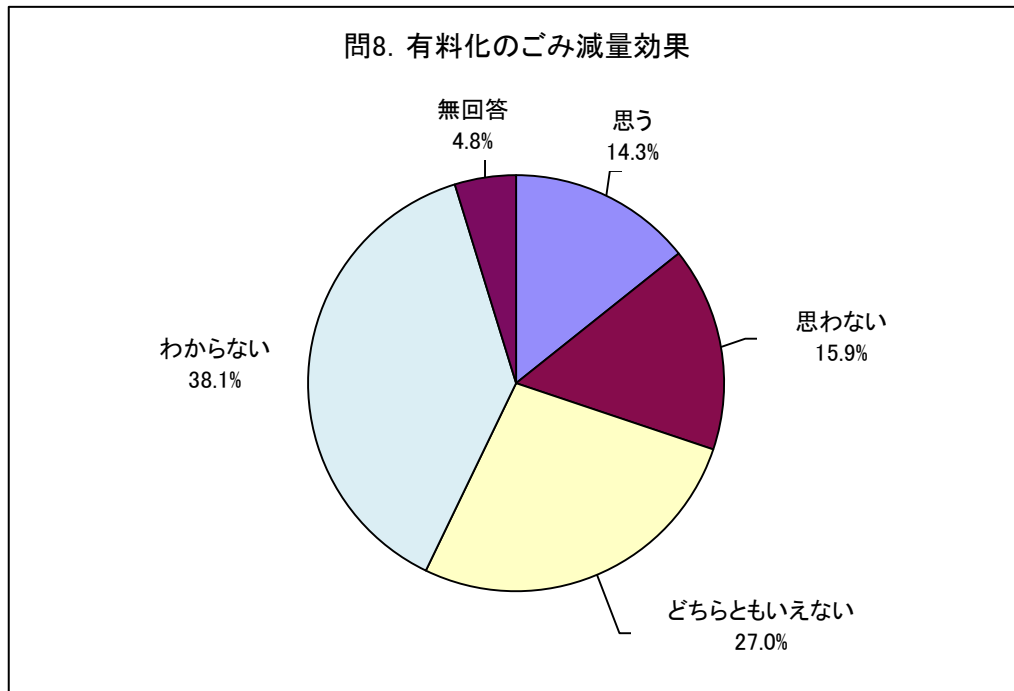


(参考) 一般家庭 (令和元年度)

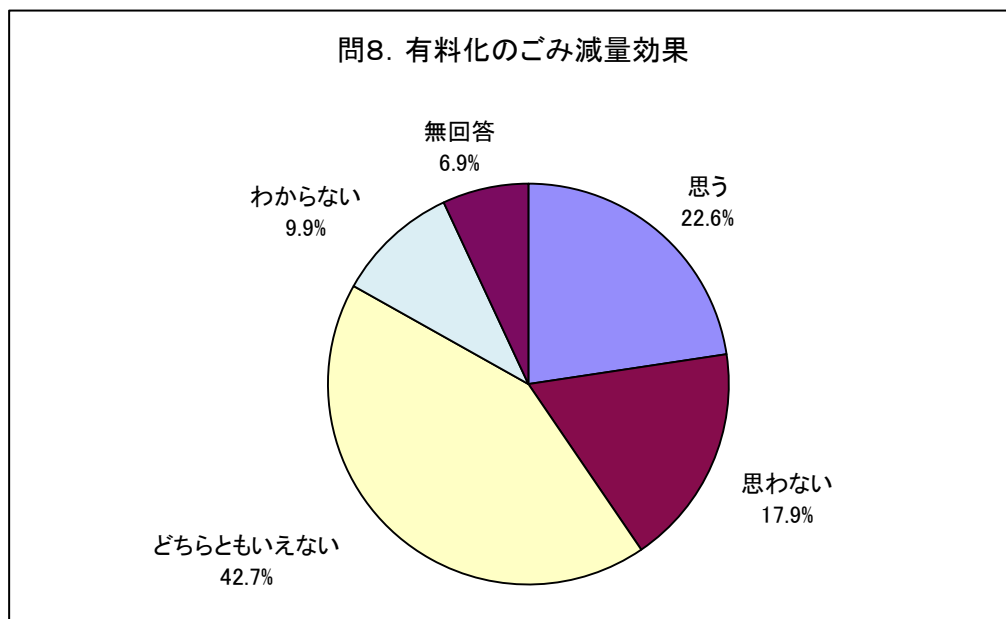
問8 家庭ごみの有料化を実施した場合の考え方について

有料化により家庭ごみの減量に効果があると思うか、という問いに対して、「思う」14.3%、「思わない」15.9%となり、「どちらともいえない」27.0%が上記の両回答を上回っており、「わからない」38.1%が最も多く、合わせると中立意見が65.1%を占める結果となった。

同時に行った一般家庭全体の調査結果と比較すると、ごみ減量化効果に対してあると「思う」は半分程度となった。また、「わからない」という意見が突出していた。



今回の調査結果

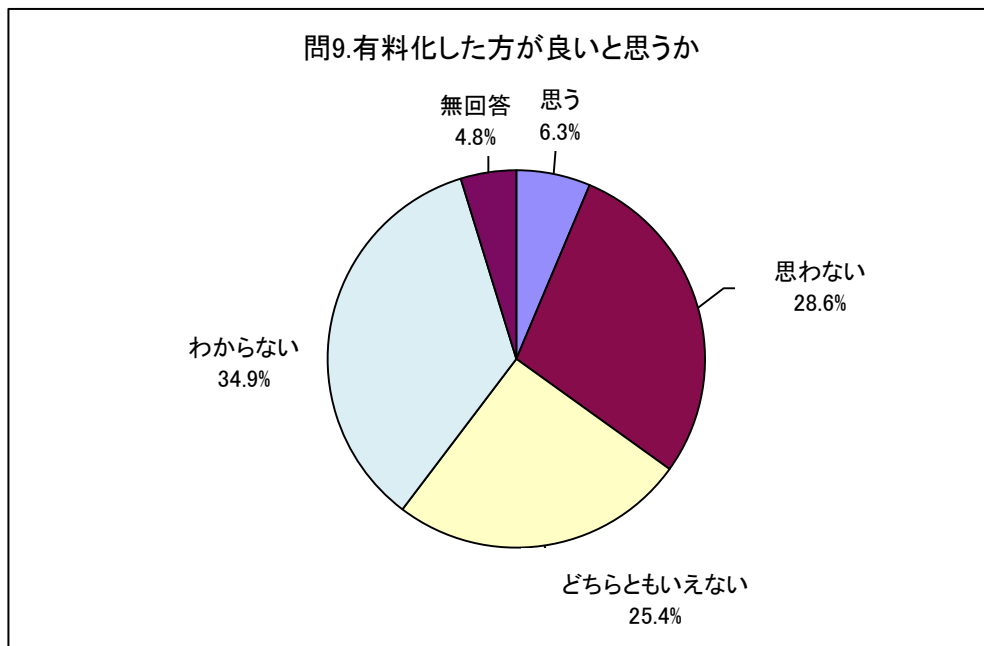


(参考) 一般家庭 (令和元年度)

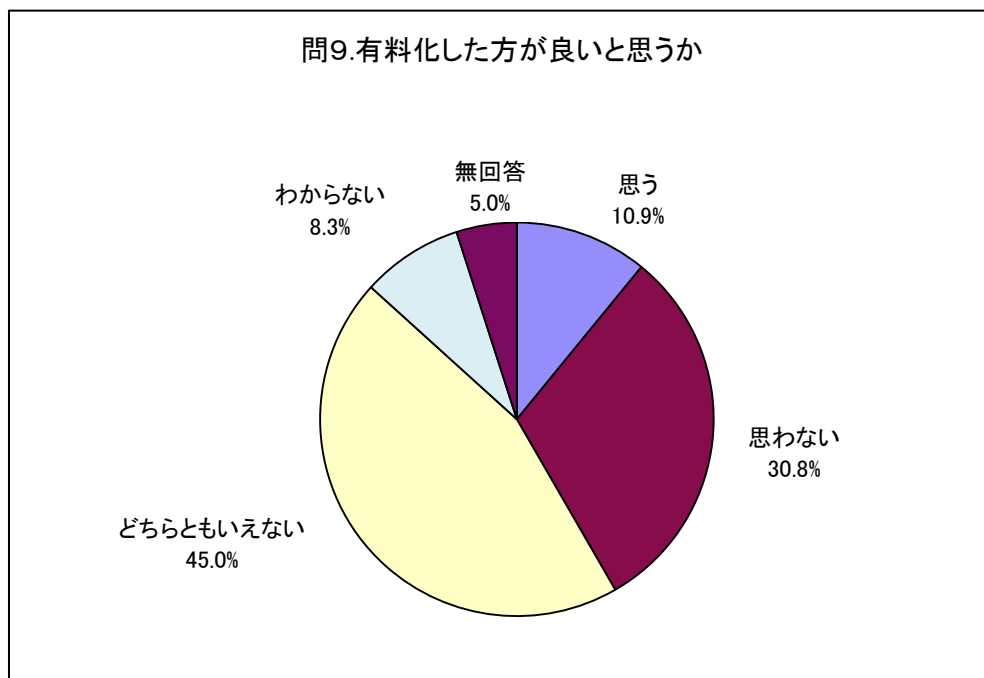
問9 家庭ごみの有料化の実施について

本年度より追加された項目である。家庭ごみの有料化をした方が良いかという問いに対して、「わからない」34.9%が最も多く、「どちらともいえない」25.4%と合わせると、中立的意見が60.3%を占める結果となった。次いで、「思わない」28.6%が多かった。

同時に行った一般家庭全体の調査結果と比較すると、「思う」「思わない」「どちらともいえない」が低く、「わからない」という意見が突出していた。



今回の調査結果



(参考) 一般家庭 (令和元年度)